同誌の編集長でもある難波紘二広報部会長（総合科学部教授）は、編集後記で「本誌の編集の方針とスタイルさらに技法は、原爆の廃虚の中でいち早く新聞を刊行した中国新聞社、阪神大震災で本社が壊滅しても二ケ月後にはカラーグラビアを刊行した神戸新聞社に範をとった」と述べ、実質二ケ月で刊行にこぎつけた苦労を語っている。

なお、同誌は、溪水社から本学生協書籍部、広島市及び東広島市の主要書店で販売されている（本体価格一八〇〇円）。

全国広報紙コンクールで本誌が最優秀賞を受賞

全国の国立大学及び高専が発行している広報紙を対象にした平成七年度の優秀広報紙コンクールで、本学から推薦していた「広大フォーラム」が最優秀賞を受賞した。最優秀賞受賞は、平成五年度に続き二度目の受賞となった。

フェニックス駅伝　大成功！

十二月三日(日)に行われた第三十三回フェニックス駅伝は、大成功のうちに幕を閉じた。当日は雲もちらほらあったがおおむね快晴で、暖かい駅伝日和の一日であった。

女子が午前十一時四十五分に総合科学部講義棟前をスタートし、鏡山公園、三ッ城公園、附属幼稚園前を回る十一キロのコースで争われ、男子が正午に同じ総合科学部前をスタートし、東広島運動公園、広島中央サイエンスパーク、鏡山公園、大学北駐車場を回る四二・一九五キロのコースで争われた。

統合移転完了記念大会となった今大会では、今年から可能となった男女混合チームを含めた男子の部が九十八チーム、女子の部が三十五チーム、合わせて一三三チームが参加し、熱戦が繰り広げられた。

駅伝自体は三十三回目を迎えるが、ここ西条での開催はまだ四回目。試行錯誤を繰り返しながら、コースづくりや中継点の設定を考えてきて、ここに来てようやくひとつの完成を見たような気がする。

地元の人々や警察の方々のご理解とご協力があってこそ、今回の大会が成功を収められたものと考え、今後も、この大会が、広島大学や広島大学体育会はもとより、地元東広島の発展に繋がるように努力していきたい。

第33回フェニックス駅伝総局長
細見伸一（ほそみ・しんいち）

【成績】

◎総合

（男子・男女混合の部）

1位　広島市スーパースターズ（学外・広島市）
2位　FM会A（工学部）
3位　マツダ陸上部II（学外・マツダ）
4位　ヘンタイ、あつまれ!!（体・陸上競技部）
5位　緑翠A（生物生産学部）
6位　こしふれっちぇ（学外・安古市高校）
7位　トライアスロンGULLS（トライアスロン部）
8位　呉高専（学外・呉高専陸上部）
9位　駿足ホモの会 Part XIII（医学部硬式庭球部）
10位　駿足友の会（体・硬式庭球部）

（女子の部）

1位　陸上部中長レディース（体・陸上競技部）
2位　コートのあくま（体・硬式庭球部）
3位　水泳部D（体・水泳部）
4位　カモシカ軍団 PartX（医学部硬式庭球部）
5位　スキー部女子（体・スキー部）
6位　体育会ソフトテニス部（体・ソフトテニス部）

中国五大学冬季大会優勝―夏・冬総合優勝

十一月十日から三日間にわたり熱戦が繰り広げられた冬季大会で、ラグビー、バスケットボール（女子）、柔道（女子）、剣道（男子・女子）、ハンドボールで一位となり、冬季大会で優勝するとともに、夏・冬総合優勝を達成した。

大会の運営にあたった木下一達実行委員長は、大会を終えて、「今後の課題となるが、選手間の交流の場がもっとあれば…」と語っていた。

フェニックスコンサート、閉幕

十一月一日の音楽科コンサートを皮切りに、フェニックスフェスタコンサート、坂田明講演会などのフェニックスコンサートやプロムナードコンサートなど、芸術の秋を彩ったコンサートが閉幕した。

今回のフェニックスコンサートは、統合移転完了記念事業の一環として開催されたもので、音楽サークルで構成している音楽協議会の会長でもある原田学長も友情出演し、「泣かないお前」「忘れな草」「オーソレミオ」「フェデリーコのなげき」など、得意のノドを披露した。

「WWW版 広大フォーラム」編集後記

佐藤崇徳（文学研究科地理学専攻）

一九九五年の春、卒業論文を書き終えて大学院に進学するまでの期間に、「広大フォーラム」をネットワーク上にのせるという、広報委員会の取り組みのお手伝いをさせていただきました。

WWW（World Wide Web）という仕組みを利用して、HiNETに接続している学内各所の端末から、そして、インターネット経由で学外からも、「広大フォーラム」が読めるようにしようというこの試みは、コンピュータ・ネットワークがもたらす高度情報化社会というものに関心のある一学生としては、大いに興味のあるものでした。

とは言うものの、HiNETとかインターネットというものは、言葉は聞いたことはあるが利用したことなどないという、ネットワーク未経験者にとっては、ほんのちょっと他のホームページを見て感覚をつかんだだけで、いきなり自分でホームページを作るというのは、今から思えば大きな冒険でした。

とりあえずは、コンピュータ・ネットワークの利点であるマルチメディアや双方向性など考えず、「広大フォーラム」一冊を丸ごとそのままWWWに載せてみようということで、「広大フォーラム」二十六期五号を題材に、ホームページ作成に取りかかりました。

まずやらなければならなかったのは、素材の電子化でした。パソコンとスキャナーを使い、紙版の「広大フォーラム」を基に、文章はOCRによってワープロ上に拾い上げ、図・写真はスキャンして画像ファイル化しました。

実は、今回一番時間がかかったのはここで、OCRの読み取り精度が悪く、大量の誤字・脱字のチェック・修正に明け暮れました。もっとも、紙版の「広大フォーラム」自体もワープロによる入稿・編集が進められているようですから、実用化される時には、そのデータを流用すれば、このような作業は不要になるでしょう。

画像はファイルサイズを気にしながらも、それなりに見えるように、スキャニングの解像度を決めましたが、もともと白黒写真が多かったため、トータルでの容量もそれほど大きくはなりませんでした。より鮮明な画像になるよう、もう少し解像度を上げてもよかったかもしれません。このようにして、記事はもちろんのこと、表紙・目次から裏表紙の「フォーラム・ギャラリー」まで、一冊のほとんど全てを電子化しました。

素材が出来上がれば、次はいよいよ、レイアウトやリンクの設定というホームページ作成でメインとなる作業です。HTML（HyperText Markup Language）というもので定められた